

第3回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会議事録

日時：令和7年6月24日（火）
午前10時00分

場所：第一庁舎5階
会議室151

長野市都市整備部都市計画課

第3回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会

次 第

日時：令和7年6月24日（火）午前10時00分から

場所：第一庁舎5階 会議室151

1 開会

2 あいさつ

3 議事

（1）第2回改定専門部会の振り返り

【資料1】

（2）市民意識調査のアンケートについて

【資料2、3、4、5、6】

（3）改定スケジュールについて

【資料7】

4 その他

今後の改定専門部会の日程

第4回改定専門部会 令和7年8月26日（火）14時から16時 会議室141

第5回改定専門部会 令和7年10月15日（水）14時から16時 会議室141

第6回改定専門部会 令和7年12月17日（水）14時から16時 会議室203

5 閉会

◎長野市都市計画マスタープラン改定専門部会委員

三 牧 浩 也	(東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任研究員)
森 本 瑛 士	(信州大学工学部 水環境・土木工学科 助教)
轟 直 希	(長野工業高等専門学校 都市デザイン系 准教授)
豊 田 政 史	(信州大学工学部 水環境・土木工学科 准教授)
三 浦 正 士	(長野県立大学 グローバルマネジメント学部 講師)
相 野 律 子	(公益社団法人長野県建築士会ながの支部 まちづくり委員長)
江 守 雅 美	(長野商工会議所 中小企業支援センター センター長)
善 財 良 治	(長野市農業委員会 北部地区調査会長)
市 岡 恵利子	(一 般 公 募)
藤 原 正 賢	(一 般 公 募)

◎説明のための出席者

都市整備部長	大日方	直毅
都市計画課長	飯島	章弘
都市整備部主幹兼都市計画課長補佐	古澤	潤
都市計画課係長	外山	平
都市計画課主査	高山	大輝
都市計画課技師	横山	翔太

◎開会

○事務局　それでは、まだ時間よりも若干早いですけれども、皆さんお集まりでございますので、第3回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会を始めさせていただきます。本日の進行を務めます、都市計画課の古澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、委員の出席状況についてご報告いたします。現在ご出席いただいております委員は10名でございます。

また、当専門部会は原則として公開で行い、会議結果の概要につきましては市のホームページで公開することとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の進行につきましては、お配りしております「次第」に従って進めてまいります。その前に、資料の確認をお願いいたします。本日の資料は、先にお送りした資料といたしまして、次第、資料1「第2回専門部会の意見一覧表」、資料2「修正市民アンケート案」、資料3「第2回専門部会の市民アンケート案」、資料4「前回改定時の市民アンケート」、資料5「子育て世代を対象にしたアンケート案」、資料6「若者を対象にしたアンケート案」、資料7「改定スケジュール」。資料7は2枚配布してございます。次に、参考資料といたしまして「第2回専門部会の修正資料」。最後に部会名簿がございます。ご確認いただきまして、資料に不足がある場合はお申し出いただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、お手元の次第に沿って進めてまいります。

◎あいさつ

○事務局　はじめに、都市整備部部長の大日方からご挨拶を申し上げます。

○事務局　改めまして、皆様、おはようございます。都市整備部部長の大日方でございます。本日は第3回の長野市都市計画マスタープラン改定専門部会ということで、大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

先月、第2回の専門部会では、事務局から基礎的なデータ収集及び現状分析のご報告と市民意識調査の実施についてご説明させていただき、委員の皆さまからは大変活発で実のあるご意見をいただきました。本日は、前回の専門部会でいただいたご意見を踏まえて再検討しましたアンケート案をご確認いただきまして、内容を固めてまいりたいと思っております。その上で、7月中旬からの調査実施へと進んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎議事

○事務局　それでは、議事に移ります。長野市都市計画審議会運営要綱第7条第6項の規定によりまして、部会長に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長　改めまして、皆さんおはようございます。本日はお忙しい中、朝からお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

今、大日方部長からもあったとおり、前回、市民意識調査の素案と、その方法についていろいろ資料を説明いただきました。本当にたくさんご意見をいただいたので、事務局のほうでもいろいろ手直しに苦勞された部分もあったかと思うのですが、本日、それを受けた修正案をご準備いただいておりますので、それをご説明いただいて、できれば本日固めたいと思うのですが、とはいえ、またいろいろご意見があると思うので、できるだけ具体的に、こういうふうに直していくというところまで含めた議論をしていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

最初に、本日の議事録の署名ですけれども、豊田委員と善財委員にお願いしたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

○議長　では、早速、議事に入ります。本日は3つありますけれども、(1)の「第2回改定専門部会の振り返り」という部分と、それを受けた(2)の市民意識調査のアンケート修正案についてというところは関連しますので、まとめて事務局からご説明いただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

○事務局　改めまして、高山です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、私から、議題(1)「第2回改定専門部会の振り返り」と(2)「市民意識調査のアンケートについて」をお話しさせていただきます。お手元の資料の1から6を使いながらお話ししていきたいと思えます。

まずは第2回専門部会の振り返りから入りたいと思えますので、資料1をご覧ください。前回、第2回の部会では大きく2つ、「改定に向けた基礎的なデータ集計及び現状分析の報告について」と「市民意識調査の実施について」をご説明させていただきました。振り返りは、「改定に向けた基礎的なデータ集計及び現状分析の報告について」からさせていただければと思えます。表を見ていただきまして、一番左側の列に項目分けしております。それから、いただいたご意見、事務局の当日の回答、一番右に対応方針という並びになっております。

出た意見としましては大きく3つありまして、1つが都市の現状について、それから、関連する計画や上位計画について、それから、立地適正化計画に掲げている数値目標についてというところで意見が出たかと思えます。

まず、「1. 都市の現状」というところですが、昨今の公共交通に関することで、バス路線のことについて皆さんからご意見をいただいたかと思えます。このあたりの対応方針につい

ては、右に書いてあるとおりです。具体的には、本日というよりも第4回や第5回以降の部会でメインに扱っていくことだと思いますので、そのタイミングでまた改めてお話しできればと思います。都市マスでも公共交通について都市構造としてどうかという視点で考えていけたらと思っております。

次に、資料をめくっていただいて2ページ目です。ボリュームが多いので、かいつまみながらお話しさせていただければと思います。「その他の意見」の「その他」のところで、16ページの「災害リスクのある区域の人口推移」の単位がおかしいというご意見をいただきました。これについては改めて事務局で確認しまして、訂正させていただきたいと思います。今日、参考資料として後ろのほうに資料を付けさせていただいています。右上に「参考資料」と書いてあるペーパーです。上が第2回の専門部会でお示ししたもののなのですが、「災害リスクのある区域の人口推移」の表でございます。「長野市全体」の平成22年と令和2年の人口の桁数に誤りがあるのではないかとご意見をいただきました。これはダブルカウントしていた部分がございます、正しくは下のページの人口になります。結果としましては、「長野市全体」や「都市計画区域内」においてはランク2やランク3の辺りで少し人口が増えており、それ以外のところでは減少傾向があるということが分かります。以上、訂正の報告をさせていただきました。

資料1に戻っていただきまして、「3. 立地適正化計画に掲げた数値目標の中間評価」については、前は都市マスが生きている中での改定だったので、中間目標を大きく変えなかったのですが、今回は都市マスと併せての改定になるので、目標を測る上でどういった数値目標が適切かということを考えていけたらと思っております。

少し駆け足でしたが、改定に向けた基礎的なデータ集計と現状分析の報告の振り返りは以上になります。

次が今日の本題の部分かと思いますが、4ページに移っていただきまして、「市民意識調査の実施について」でございます。これについては大きく3つ、アンケート全体に関する意見、個別の設問に関する意見、対象者の抽出に関する意見、こんなところの意見をいただいたかと思えます。

まず、大きいところからお話しさせていただけたらと思います。「アンケート全体に関すること」ですが、アンケートの対象者の3,000人の理由であったり、クロス集計をしたときの精度、どういうふうに使っていくのかというご意見をいただいたかと思えます。それに対しては、一番右の列をご覧いただきたいのですが、前回の部会で説明が不足していて申し訳なかったのですが、改めてご説明させていただくと、今回の市民アンケートは、一番は長野市全体の傾向を把握することを主目的とするアンケートと考えております。例えば、クロス集計をするにしても、市街地、市街地周辺、中山間地の3地域の区分でクロス集計を用いることを考えております。また、地域別の構想でも32地区ではなく12地区の区分になるので、この区分であればある程度の精度の結果として読むことはできると考えております。これが

アンケートの大きな目的、使い方になります。

それから、3,000 人の根拠としましては、統計学的に一定の精度、具体的には信頼水準が 95%で、標本誤差が±3%を得るために、前回のアンケートやほかの庁内の関連するアンケートの実際の回収率から、必要な回答数を確保するためにどれくらい必要か、そこに余裕を持った数が 3,000 人というところで設定しております。

それから、一つのアンケートで全ての観点を網羅するのは難しいため、今回のアンケートの中で不足してしまうところ、その辺りは地区別のカルテ、今日、このあとお見せしようと思うのですが、地区別のカルテのデータや、関連するような総合計画とか子育て施策に関するアンケートも今年度を実施していますので、そのあたりの利用できそうな部分も活用していきたいと思っております。

地区別カルテについて、実際どんなものかというのをご覧いただきたく、ボリュームが多いのでタブレットのほうに格納させていただいています。地区別カルテが 32 地区あるので、めくっていただきまして、第 1 地区を例にしてご説明しますと、大きく 10 項目の事項が書かれています。人口や世帯数など、2 の「住民自治協議会」、組織立てがどうなっているかなど、それから、近年の動向や地区内での公共事業など、あと、その地区固有のイベント・行事や地域資源、地区内の公共施設の状況、それから、災害時の体制で、避難場所やハザードの関係など、それから、市民会議の実績など。そのほか、第 1 地区には書いてないのですが、地区によっては特記事項が書いてあります。このような地区の基本的な情報をまとめたものになりまして、毎年、長野市の秘書課のほうでまとめているので、こういったものも活用していけたらと思っております。

併せて、先ほどもお話ししたとおり、総合計画や子育て施策のアンケートも使いながらやっていきたいと思っております。

それでは、資料 1 に戻っていただきまして、6 ページをお願いします。次は、「個別の設問に関すること」をお話しできたらと思います。まず、問 1 の性別についてですが、こちらについては、「男性」「女性」と「その他」と「回答しない」という 4 つの項目があったかと思うのですが、これに関しては、同時期に実施している総合計画や子育てアンケートも確認したところ、「その他」と「回答しない」が 1 つの選択肢としてまとまっていたので、それに合わせる形で「1 男性」「2 女性」「3 その他・回答しない」という選択肢で修正したいと考えております。

資料 3 が前回の第 2 回の専門部会でお示したアンケートになります。それから、資料 2 が今回修正させていただいたアンケートになります。この辺も見比べながら、お話を聞いていただければと思います。

先に進みまして、前回の専門部会のアンケートの問 2 の年齢のところですが、年代ではなく年齢を書いていただくような形になっています。これについては、個人の属性や自認に関するものではないと思うので、このまま年齢は書いていただく形にしたいと思っております。

問7の「未成年との同居の有無」というところに関しては、「18歳未満のお子さんやお孫さん」は「未成年の方」に修正したいと思います。

前回のアンケートの問10については、これは少し網羅的な内容にはなっているのですが、前回、平成28年のアンケートでも同様の設問がありまして、それを継承したものになります。選択肢は一律であるのですが、まちづくりの現状を網羅的に把握する上では必要な設問と事務局では考えておりますので、これは基本的にはこのままでいきたいと思っております。

それから、前回のアンケートの問15です。ここが一番意見をいただいたところかと思っております。いただいた意見としましては、前回のアンケートから内容が大きく変わっているのでは、経年変化を把握することが難しいのではないかと、みんなが全ての選択肢で「非常に共感する」に○をしたら重み付けが分からないのではないかなという意見がいただけたかと思っております。これについては、資料2の問20以降が修正した形になるのですが、改めて事務局のほうで検討し直しました。なるべく前回の平成28年のアンケートの経年も見られるような形にしたいということと、25個選択肢があったのですが、このままではやはり負担感が大きいということと、それから、何が重要かが分からないということで、資料2の問20のように、重要だと思うものを5つ以内で○をしてくださいというような重み付けをしました。それから、できるだけトレードオフの関係をつくりまして、何が重要で、そうではないかということが分かりやすいような設問に作り替えております。

その中でも、網羅的に聞くというよりは、問20が安全・安心に関すること、問21が移動手段の確保に関すること、問22が全体的な、持続可能な都市を実現するためにどういうことが大切かというようなこと、というように、今回の改定で様々な観点があると思います。より重要になるのではないかとこのところを3つピックアップして、かつ、重み付け、重要度が分かるような聞き方で聞くような設問に作り替えております。

説明は以上になります。

○議長　　今、議事（1）と議事（2）のご説明をまとめていただきましたけれども、大きくは、まず最初にデータの部分の補足の話と、あと、市民意識調査に関して、前回いただいた意見に対する修正案ということでご検討いただいたものをお示しいただきました。事前にご覧いただいているところもあろうかと思いますが、ご質問、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○委員　　修正いただいてありがとうございます。大変だったと思います。とても細かい話で、すぐ終わる話なので最初に手を挙げさせていただきました。

性別の3つ目のところで、「その他」と「回答しない」をくっつけたということで説明いただいたのですが、文言が「その他・未回答」で、未回答は回答してないということになるので、日本語として少し違和感があるので、「その他・回答しない」か、短くするにしても「無回答」ではないかと思っております。細かい話ですが、修正をお願いします。

○議長　　その方向で修正するという事でよろしいですか。

○事務局 その方向で修正させていただきます。

○議長 ありがとうございます。

どこからでも構いませんので、いかがでしょうか。前回、32 地区の情報を捉えるには配布数が少な過ぎるのではないかとというところが 1 つの大きな指摘ポイントだったと思いますが、その辺は趣旨も含めて今回改めてご説明いただきました。まずは市全体で、3 地域区分での情報を捉えたいというご説明だったかと思います。結構ボリュームがあったので負担感があるのではないかとという辺りは、いろいろ工夫していただきながら、何とかボリュームを抑えながら、少し重み付けも捉えられるように項目を絞って、問 15 を整理していただいたというところもあるかと思います。いかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 資料 2 の修正いただいたアンケートについて、今、部会長もおっしゃったように、かなり負担感がなくなっていて、非常にうまくまとめていただいたのではないかと思います。一番肝心の問 20、21、22 ですが、これは項目が 10 項目程度ありまして、そのうちの 5 つ以内なので 5 つ〇を付けると半分の項目になってくるのですよね。そうしたときに、本当にその人が重要と考えているものをある程度はつきり取るには、私は、3 つくらいでもいいのではないかとこの気もしたのですが、いかがでしょうか。

○議長 その辺りは非常に悩ましいところで、幾つくらい書いていただくのが一番有効なデータになるかというところの判断になるかと思います。

○委員 5 つではばやけるのではないかとこの気もしました。

○議長 その点に関して、ほかの委員の皆さま、もしお考え、ご意見があればいただきたいのですけれども、いかがでしょうか。

実はこの点は私も事前にお話を伺った時に、逆に 3 つにしてしまうと、ある程度皆さんが関心があるところに集中して、優先度は 4 つ目、5 つ目くらいだけれども何となく大事だと思っているものというのがきれいに抜け落ちてしまう可能性があるのではないかと。例えばですけれども、問 22 のようなところと言うと、恐らく、選択肢の 6、7 などは子育てや高齢者の福祉がテーマになっているので、それぞれの世代の方は選びやすい部分かと思えます。一方で、例えば選択肢の 10 のような、先端技術を活用してのようなものは、多分 3 つでは選ばれにくいだろうと思ったときに、5 個くらいにしておく、関心のある方というか、大事だと思っている方はこういったところも選択に入ってくるかもしれないというところもあって、なかなかその辺は、何が一番いいのかというのは、多分、事前に多めの人数で試しにやってみるみたいなこともしながら、一番いいところを定める必要があるのではないかなど事前に話していました。いかがでしょうか。何が正しいのかは、悩ましいところではあるとは思いますが。

○委員 いいですか。

○議長 もちろんです。

○委員 今、少し拝読しながら、この問 20 と 21 は割と、全部かなり大事というか、ど

れもあったほうがいいけれども、その中で特に傾向が知りたいことかなと思っています。そうすると、問 20、21 については3つくらいのほうがむしろ適正な感覚があります。問 22 は、部会長がおっしゃったように、やはり視点がいろいろ様々なので、世代などによってかなり変わってきそうだといいところと、抜け落ちてしまうところが出てきそうな感覚は私も抱いたので、ここは5つでもいいのではないかと、感覚的な話になってしまうのですが、思っていました。

○議長 ありがとうございます。そうですね、問 20、21 と問 22 は、選択肢の幅というか、テーマの広がりが少し違うので、そのように分けるというのも1つかと思います。まず、この点からはっきりさせましょうか。どうでしょうか。

○委員 大勢の中の傾向を見るという観点から考えますと、私は、5つでもいいのではないかという気がします。3つに絞ることによって漏れ落ちといいますか、見えなくなってしまう部分があるのは少し怖いので、5つのままでいいのではないかと思います。

○議長 ありがとうございます。多くの方が5つ回答される中で、おのずと重み付けがされるということもあるのではないかといいところでしょうか。いかがでしょうか。答えはないので難しいですね。

○委員 長野市さんがどのくらい幅広く頑張るか次第ではないですか。

○議長 大事だというのがたくさん出てきたところで、ということでしょうか。

○委員 いろいろと頑張れないのであれば3つに絞ったほうがいいし、幅広く頑張りたいのであれば5つでも構わないと思います。

○議長 なるほど。全体としての票数が増えるということは、それだけ大事な項目に対する票の数が増えるということにはなってくるので、ある意味、覚悟というか、アウトプットにつなげるところも意識しながら設問数を考える必要があるということですね。

いかがでしょうか。よろしければ、今、委員からもあったとおり、この原案どおり「5つ以内」とした上で答えていただくというようにしましょうか。よろしいでしょうか。

○委員 私もこれは答えづらいなと思いながら話をするのですが、折衷案的に、5個にして、たくさん回答があつて、結局どれが重要か分からなくならないようにという意味で言うと、順位付けを回答者にしてもらおう。一番重要が何番、次が何番と5つ書いてもらおうというのも思ったのですが、一方で、その順位付けをするのも回答者からすると難しいかもしれないというところがあるのですが、どうですかね。

○議長 なるほど。5つ選んでもらうときに順番も書けるようにしておくとか、そういうことは可能なのでしょうか。これは、回答は紙ですよ。

○事務局 WEB もあります。

○議長 回答フォームでそういうことはできるのでしょうか。

○委員 フォームでできるのではないのでしょうか。一番思うものを選択してください、2番目に思うものを選択してくださいという形でできると思います。

○委員 データのハンドリングが大変ということと、人によって2番と3番の差の開き方が違うので、そこをどう捉えるか。

○議長 順位だけではそうなりますよね。どうでしょう。事務局的に、その辺りを踏まえて、現実的にというか、アンケートの作り方及び集計の仕方、及び、その受け方も含め、今いただいた意見の中で、ネックになりそうな部分や、こういうふうにしたいというようなところがあれば、少し補足いただければありがたいです。

○事務局 順位付けに関しては、作業面の話もあるのでありますが、委員がおっしゃったように、何番にするかという悩みが、5個を順に並べるというのは回答者にとって非常に負担になるような気がします。その順位を適当にやってしまうと意味を持たなくなるので、やるのであれば2つくらい、特に重要なもの、次に重要なものくらいであればできるかもしれないですけども、それもやってみないとわからないと思います。

あと、先ほど委員がおっしゃったように、選択数を少し変えるということも事務局内で話が出ていたと思います。問22を5個にして、問20、21辺りを3つくらいにするというのも、検討の余地はあるのではないかと思います。

○議長 ありがとうございます。もともとベースが負担感を減らすというところからの修正案もあるので、順位付けは少し厳しそうということですかね。

○委員 すみません、もう1ついいですか。問22に関して言うと、結構これは、関連するんですけども、都市計画、まちづくりで重視するというよりかは、重視すべき政策について聞いているようにも見えるのです。だから、総合計画も同じ検討ですよ。そちらのほうでもこういうことは聞いてないのですか。

○事務局 総合計画のほうはもう少し抽象的な聞き方をしていて、その人が生きていく上で大切にしているものとか、そういうようなもう少し概念的なものです。ここまで具体的な、場所のイメージであったり事業のイメージを示唆するような聞き方はしていません。

○委員 分かりました。では、その意味で、こちらのほうにあるということは、そこは差別化ですね。その確認だけです。

○事務局 補足で1点だけ。選ぶ数を変えるときは、回答者の目線から言うと、全部5つ、全部3つであれば分かりやすいけれども、途中で変わると混乱を招くのではないかと、事務局内部で出ていました。もしそういうスタイルにする場合は、回答数がしっかり分かるような形で処理したいし、同じでいくのであれば同じでということになるかと思います。

○議長 ありがとうございます。この辺は、回答フォーム上、3つと書いてあるところは3つ以上は入れられないようにはなりますよね。

○事務局 はい、その制御はできます。

○議長 仮に5つの場合はどうなるのですか。例えば5つ欄があって全部埋めるような、分かりやすい状態になっているのでしょうか。

○事務局 5つ必ず選ばせるという制御はできるけれども、5つ以内ということになる

と、3つの人をエラーという判定にできないので、そこだけ制御がいるかと思います。

○議長　それは、そのように組めばできるということですね。

○事務局　できます。

○議長　分かりました。ほかはよろしいですか。委員、お願いします。

○委員　今の何個という話ではないですけれども、前回の議論の中で、問 15 があまりに、問 10 のところでもたくさん回答しているし、問 15 でもたくさんボリュームがあるから、少し簡略化しようということで、今回、問 20、21、22 という設定をしたと私自身は理解しています。

そういう中で、問 15 の中でもとても大切な部分はいろいろあったと思います。その中から、問 20、21、22 になった途端に、問 20 のところでは基本的には安全、要は防災や防犯というようなところに集約されていて、問 21 は交通、そして問 22 はざっくりとしたまちの方向性ということになってしまっています。本来、問 15 のところでは、長野市は農業と普段の営みがとてもうまくリンクしているからこそ幸せな豊かな生活が送れているみたいな、そういうところも問 15 では拾えていたものが、問 20、21、22 になった途端に、あまりに集約化されてしまっていて、その辺りが拾えないなと思いました。

私自身、何をどうすればいいのかというアイデアが今すぐあるわけではないのですけれども、そもそも問 20 で安全というところに絞り込んだということや、問 21 で交通、そして問 22 で広くまち全般の部分を書くというようなところに絞り込んだ理由が、長野市さんとしてここにやはり力を入れていきたいのだ、だからこそこういう設定にしているのだというようなものがあればいいのですけれども、なぜこういう設定にしたのかというのが単純に気になりました。

○議長　その辺りについて、事務局より、議論の経緯等補足いただけるとありがたいですが、いかがでしょうか。

○事務局　その辺りは、事務局としては、やはり一番は負担感が大きいというところで、それを軽減したいというところがスタートとなつての修正だったかと思います。その中で、今回の改定の中で様々な視点が当然あるのですけれども、より重点的というか、よりトピックになるところはどこかと考えたときに、この3つではないかというところで、これを出出しして聞いている作りにしました。

○委員　これを見ると、本当に、防災や防犯・安全みたいなところや、交通というようなところに今後長野市として力を入れていくのだなというふうに、アンケートの回答をしながら感じてしまうような気がしています。いや、もっと、まちなかで商売をしているから、そういうところを回答したいのだけれども回答ができない、農業をしているのだけれどもそういう思いが伝わらないというふうになってしまわないかなという思いが若干あります。長野市さんとしてやはりここは力を入れていきたいということで、問 22 はどちらかというところと広く全般的にというところだと思うのですけれども、問 20、21 辺りを力を入れていきたいと

いうことであれば、全然、こういう形でもいいのですけれども、そういう思いが反映されているという理解でいいですか。

○事務局 問 20 については、黒い文字がたくさんあるとおり、前回聞いている内容をまた改めて聞いている内容になります。立適でも令和 4 年に防災指針を盛り込んでいるとおり、防災については長野市は、今後またこの会の中で内容を詰めていきたいと思っていますので、聞きたい内容になっています。委員がおっしゃるとおり、問 22 が一番広く聞いている内容なので、少し違和感があるとすれば、問 22 を前に持ってきて、まず全体を聞いてから、防災とか交通の部分を後ろに持ってくるという方法もあるかと思っています。

○委員 分かりました。

○議長 よろしいですか。特に、都市計画や立地適正化計画を考えていく上で防災の話と交通の話、生活利便性の話と言ったほうがいいのかもかもしれませんが、非常にポイントになるので、その辺で大きな方向感をつかむために問 20、21 を作っているのだらうと理解します。確かに、急に現実的な話というか、長野市の魅力とか、本当に育ててもらいたいところはどこかというところが少し見えづらくなっているというところはあるかもしれません。順番を入れ替えるというのは、確かにあるかなとは思いましたが、最後にこの質問で締めるみたいな、そういう考えもあるという気もします。

○事務局 そうですね、そういう考えでした。

○議長 でも、何となく収まりとしては、問 22 を前に持ってきて、一番最初に長野市の魅力というか、まちづくりにおいて大事なことはどれかというところから入るというのは、回答者も答えやすいかもしれないという気はします。

○委員 今のところと関連して、前の問に関しては、「あなたのお住まいの地区の」ということで、地区に限って回答していたと思うのですけれども、この大問 3 番のところの、「長野市全体の今後のまちづくりのあり方」というのは、もう自分の地区というよりは、長野市そのものがこうなってほしいという意味で回答するという理解でよろしいですか。

○事務局 はい、そういう理解でよろしいかと思います。

○委員 もう少しそういうことが伝わるように、設問の文章などを入れ込んでいただくといいのではないかと思います。

○議長 ありがとうございます。

○委員 お話が戻ってしまうのですが、先ほどの委員からのお話で、前回お示しいただいた問 15 のところに載っている項目で、抜け落ちてしまっているものがあるということだったので、問 22 を前に持ってきたときに抜け落ちている。例えば問 15 の①では農業の話が出ていたり、あと、景観の話などを、項目は変えてしまうのですが、問 22 の中にあまり違和感がない形で追加するということは、どうでしょうか。長野市全体の話としてお聞きしておいたほうがいいのかということであれば、復活させてもいいのではないかと。ただ、あまり項目が増えるのはどうかとも思うのですけれども、完全に触れていない

ものについては、やはり市全体のものとしてあってもいいのではないかと。確かに、言われてそんなことを感じました。

○議長　例えば、前回の問 15 の自然環境や優良農地の話とか、③の神社仏閣みたいな話が、今回は 1 でまとまってしまっているみたいなのところですかね。確かに、その辺は少し雑な感じもありますので、分けてもいいのかもしれません。

○委員　この新しい問 22 の得たい情報という意味で言うと、何になるのですか。選択肢を見ると、かなり大枠の政策、これに力を入れるよ、スポーツに力を入れるよみたいな話もあれば、例えば選択肢の 3 と 4 のような、コンパクト化して歩きたくなるまちづくりとか、みんな車を利用しているのだから、自家用車利用を想定して、コンパクトということとは逆の方向の取り組みとか、そのどちらかということを考えたいみたいな設問が入り混じっている気がします。特にこういう政策の方向性みたいなことをイメージした都市計画マスタープランのあり方を考えるという材料なのだったら、「～のまちづくり」に選択肢を統一しながら、それぞれ農業などが抜け落ちているものを加えるという形にすればいいのではないかと思います。もう少し細かいことを聞きたいのだったら、逆に、大ざっぱな選択肢になっているものは削ってしまって、具体的な方向性が見えるような選択肢にそろえたほうがいいのではないかと思います。少し、選択肢の大きさがばらけているイメージがあって、選択肢は考える余地があるのではないかと思います。

○議長　もしよろしければ、その辺の意図や活用イメージみたいなのところを事務局より補足いただけるとありがたいですが、いかがでしょうか。問 22 の話です。

○事務局　確かに、委員がおっしゃるように、物事の階層が混在する選択肢になっているというのは、ご指摘のとおりかと思います。問 22 の使い方や目的に関しては、具体的な細かい施策について聞くというよりは、長野市としての大きな方向性を、どういうところを皆さんが感じになって、どういうところが大切だとお考えになっているかということを知りたいというのが目的です。例えば 3 番で言うと、いきなりウォーカブルな話などが出てきますが、スポーツが充実したまちづくりとは階層が違うという話かと思います。その辺は、今の例で言うと、9 のスポーツのほうくらい階層が上というか、大きな枠で聞くという方向性に選択肢の表現というか、聞き方を修正したほうがいいかもしれないと思います。

○議長　そうですね。都市マスの中で、最初のほうに出てくる市のまちづくりの大きな方向性を、キーワードを抜き出したり、文章化する時にこういったところの重み付けを生かしていきたいという趣旨かと思います。全部大事なことなので、重要と思ってないからやらなくていいという話は 1 個もないとは思いますが、少しその辺の書きぶりや強弱の付け方に反映できるのではないかという趣旨かと思います。今、委員からいただいた、「～のまちづくり」というような形で統一したほうが、答える側も答えやすいし、趣旨としても伝わりやすいのではないかと思います。

○委員　細かいことで恐縮なのですが、今日の資料 2 の 3 ページの、問 3 の職業の選択

肢について、兼業農家さんはどこに丸をしてもらうイメージになるのですか。

○事務局 兼業農家というと、農業と別の仕事と両方されている方で、農業を主に行っている場合もあれば、別の農業ではないほうの仕事を主に行っている場合と、2つのパターンがあるかと思います。そこに関しては、その回答者さん自身が、自分はこちらが主だと考えているほうに丸を付けていただくという形になると思います。だから、両方やっていて、例えば平日は会社員をしていて、休日は農業だから、会社員のほうが収入も多いし、働く日数も多いし、会社員のほうが主だと思ったら、2に丸をしていただく形になると思いますし、その逆であれば4に丸をしていただく形になるのではないかと思います。

○委員 兼業であっても、例えば農業や林業などを営んでいるのであれば、そういう視点をお持ちで全体に回答をするのではないかと思いますので、主な収入が会社員などであっても、農業や林業に直接関わっているかどうかというところがあったほうがいいのではないかと思います。主なところを答えるということですね。分かりました。

それから、同じ資料の7ページの間20ですけれども、質問のときに、「まず生活を営むうえで最も基礎となる安全・安心の確保について」と書いてあって、またそのあとで、「長野市が『安全・安心なまちづくり』を進めていくうえで」というふうに書いてあるので、そんなにたくさん安全・安心ですと、文字を増やさなくてもいいのではないかと、もう少しすっきりさせてもいいのではないかと思います。質問の仕方も、例えば1番であれば、「歩道や自転車レーンの確保など道路整備による交通安全対策」ということで、「ああ、安全対策について聞いているのね」というところで戻らなければいけないので、何について聞いているのかというのを例えば前に出すなど、もう少し質問が簡潔になるといいと思います。

その次のページの間21も、「次に」と書いてあるのですけれども、この「次に」は要るのですか。それから、この間21の1や2の「高頻度運行」や、3番の「速達性」など、難しい言葉が出てきます。多分、アンケートなどは中学生くらいでも回答できるような聞き方をすると思うので、できるだけ簡単な難しくない言葉で同じ内容を聞いていただいたほうがいいのではないかと思います。同じく間21の8番ですが、後ろのほうに「大きな移動をせずとも成り立つ暮らしの実現」と書いてあるのですが、これは私や私の家族が徒歩または自転車などで移動できるというイメージで聞いてらっしゃるということですね。分かりました。

間22について、青いところの2行目に「都市にしていくために、どのようなまちづくりや施策に」と書いてあります。「まちづくり」はたくさん文字に出てくるのですが、いきなり、どんな都市にしますかと聞かれているので、都市計画的なことを聞いているからなのかなという気もするのですが、「まちづくりについて」と聞いていて、いきなり「都市」が出てきたりするので、それも揃えられたほうがいいのではないかと思います。

○事務局 ありがとうございます。いろいろお話をいただいた中で、間20の「まず生活を営むうえで」というお話があったかと思います。「まず」はいらないと思うので、そこについては削除したいと思います。ただ、前文を入れているのは、どういう背景で聞きたいのだ

という、長野市として安全・安心が大切だと思っていますという、そのニュアンスを伝えたいがために入れているこの冒頭の言葉になります。「まず」は確かにおっしゃるとおり必要ないと思うのですが、その以降の「生活を営むうえで最も基礎となる安全・安心の確保について」は、できればこのままにしたいと考えています。そういったものも我々は大切だと思っているし、大切だと思っているからこそ聞くのですというニュアンスを伝えたいということを入れているので、残させていただけたらと思います。

○委員 はい、分かりました。

○事務局 あと、問 20 の選択肢について、今は具体的な取り組みがあって、次にその項目というような順番になっているものを、最初に項目を書いてから具体的な取り組みを書いたほうが相手に伝わりやすいのではないかというご意見だったかと思います。これに関しては、確かにおっしゃるとおりかと思います。ただ、なぜこういう表現にしているかというと、基本的にはその並びでいけるのですけれども、確か、その並び方にすると 3 番や 4 番が難しかったから、こういう今の表現にしたと思います。ただ、この辺は表現の問題なので、最初に結論というか、項目やジャンルを書いて、次に具体的な取り組みを書くという並び方も工夫すればできないことはないという気がするので、まず結論を言ってから具体的な取り組みというような方向で、表現を改めたいと思います。

問 21 の冒頭にある「次に」は、確かにおっしゃるようになんないと思うので、削除させていただきたいと思います。それから、問 21 の中の「高頻度運行」「定時性」「速達性」などは確かに少し難しい言葉だと思うので、例えば「高頻度運行」は要は運行間隔を狭めたり運行本数を増便するというようなことだと思うので、「運行本数の増便」などの簡単な言葉に変えたいと思います。3 の「定時性や速達性」は、時刻表どおりにバスや電車が来るという話だと思うので、「時刻表どおりの運行」などのような言葉に変えたいと思います。

最後に、問 22 の「都市」という言葉は、他の全体バランスを見て違和感があるというお話だったかと思います。「持続可能」という言葉があったので「都市」という言葉を付けなくなったのではないかと思います。都市計画とまちづくりという言葉の使い分けは非常に難しいと私自身も普段感じているのですが、このアンケート全体を見ると、まちづくりという言葉に全体を統一したほうがいいのではないかと思いますので、ここは「都市」ではなく「まち」というような、正確性というよりは分かりやすさを取って、「まち」という言葉がいいのではないかと思いますので、問 22 の「都市」は「まち」にしたいと思います。あと何か不足しているところはありますか。

○委員 大丈夫です。資料 5 にいってもいいですか。

○議長 今は資料 2 に関してお願いします。

○委員 では結構です。ありがとうございました。

○議長 いろいろご指摘をいただきましたけれども、結構丁寧に文章を読んでもらって回答するという形で、今、まとめていただいていると思いますけれども、確かに文章を丁寧

に読んで理解しないと答えられないというものでもあるので、もう少し直感的に、設問の意図と選択肢のポイントは、キーワードがきちんと伝わるように、回答の作り方、文章の作り方を工夫いただければと思います。

ほかの部分の含めて、まずこの資料2の全体のアンケートに関して、もしありましたらお願いします。

○委員 回答の方法ですけれども、インターネットによる回答においては必須項目というものをどのように考えられているのですか。全部必須なのか、問23、24は任意なのかというところは、どうなのでしょう。

○事務局 アンケートフォームの作り込みとしては、基本的に数字で選択できるところは全部選択していただく。その上で、問15や問16、17、19のように自由記載があるものに関しては任意としています。ただし、問23、24は、やはり一番聞きたいところで、キーワードを集めたいという意味でも、必須の回答にしています。

○委員 そうすると、紙の人もそこは必須で書くということですか。

○事務局 そのほうがいいですので、自由記載か必須回答かが分かるような表現にしたいと思います。

○議長 よろしいですか。

○委員 委員も言っていた問20、21について、長野市さんとしてはこの安全・安心とか交通に関する問20、21のところは、もう実施することが大前提というふうに考えて、こういう設問にしているということですよ。住民から、例えばこの2つを比較してどちらが重要かということを知りたいとか、そういうところはもう今回は捨てようという感じなのですか。

○事務局 そうです。その2つの重み付けや重要性を見るというよりは、全体としてその2つはもうやっていくし、重要なのだという前提で聞いています。

○委員 分かりました。ありがとうございます。細かいところで、問20の4番は、「がけ崩れや土砂災害」と書いてあるのですが、がけ崩れは土砂災害に含まれると思うので、具体名で言いたければ「がけ崩れや土石流」とか「地滑り」としてもいいし、あるいは「土砂災害」だけにするかですね。

あと、10番について、これは私が知らないのですけれども、交通や犯罪の危険性を事前に周知するハザードマップというものがあるのですか。災害ハザードマップは分かるのですけれども。

○事務局 これは地区ごとの任意の取り組みになると思うのですけれども、各地区の住民自治協議会が主体となって地域の方の声を集めながら、こういう所が交通安全の面で危険箇所だとか、防犯上、こういう所がこうなのではないかというマップは実際に作っている、そういう取り組みが市内であります。

○委員 あるのであればいいです。ありがとうございます。

○議長 では、委員、お願いします。

○委員 2点あります。問23について、任意ではありますが、非常に答えづらいと思います。例えば「他市の人に説明すると」とか、何かしら前提条件、今回のこの説明をする上での、もしくは、まちづくりで踏み込むのであれば、「移住を考えている人に」などももしかするといいのかもしれないですけども、誰に向けてというところがあるだけでも回答のしやすさが全然変わってくると思うので、そこは少しご検討いただけたらと思っています。

もう1点は、マーケティング的な視点になってくるのですが、ぱっとこれが届いた時に、特に忙しい現役世代などは、これを回答する重要度というか、何のためなのかは読むのもちろん分かるのですが、自分がどれくらい回答しなくてはいけないものなのかみたいなのが分かりづらいです。そこが、もし時間のある方、まちづくりに普段から関心がある方がゆっくり答えるだけではなくて、多様な意見を集めるという視点に立つと、何かもう少し、例えば課題感などを示すとか、小さなところであれば所要時間などを記載するなどということも含めて、もう少し、これを答えてほしいというところと、回答にあたっては、封筒なども含めて工夫が少しできると、いろいろな郵便物が届く中でこれに答えてもらうというところでは、まだまだ工夫できそうだなと少し感じました。

○議長 もし事務局からあれば、お願いします。

○事務局 まず1つ目の、問23や問24の聞き方に関しては、確かに今は、ざっくりとした聞き方だと、あらためて見ると思いました。いずれにしても、聞きたいこととしては、あなたが思う長野市の姿を客観的に表現してくださいというところが、知りたいところだろうと思います。そうすると、今、委員がおっしゃったように、「他市の人に」とか「知人に」というようなフレーズがあると、そういうことがおのずとはっきりしてくるというか、クリアになるのではないかと思いますので、表現を検討したいと思います。

2つ目については、おっしゃるとおりかと思います。都市マスはものすごく重要なものだと思うのですが、その重要性を端的に伝えるというのは難しいところで、具体的にどのような表現しようかなというところではあるのですが、とはいえ、できるだけ回答率を上げるとか、協力していただくというところへの工夫というか、努力はしていかなければいけないと思います。例えば、はじめにこの設問の数とか所要時間をお示しするというのは、1つの方法かと思うので、そういったところは示したいと思います。確かに、これを開けて、最後までめくらないとどれくらいボリューム感があるのかとか分からないですし、そうすると回答から足が遠のいてしまうと思うので、その辺は少し、例えばですが、設問数と所要時間を最初にお示ししたいと思います。

○議長 ありがとうございます。では、最後に委員、お願いします。

○委員 すみません。細かいところで申し訳ないのですが、4ページ目の問10について、お住まいから最寄りの鉄道駅やバス停の話です。これはフルデマンドの場合には、もうドア・トゥ・ドアで来る場合には、バス停に行かないという方もいらっしゃると思うのです。なので、バス停という表記を少し工夫していただいたほうがいいのではないかと思います。

した。

それと、問 23 の先ほどお話があったところで、四角の後ろは「～なまち」でなければいけないのですか。例えば、子育てしやすいまちや、安心して生活できるまちだったら、「～な」に結び付けるのは難しいです。この「～な」というのは、例えば、例としてこのようなものを書いてほしいというものを書いておいて、あえて「～な」というふうにしないほうが回答しやすいのではないかと思います。

あと、これはコメントなのですが、問 21 について、そもそもコンパクト・プラス・ネットワークで集約化していこうという考えの中では、この 1～8 というのは全部並列でやっていかなければいけないことだと思うのです。そこで重要度を付けるということが、そもそも必要なのだろうかと個人的に思っています。それこそ、1 番は置いておくとして、2 番、3 番などはコンパクト・プラス・ネットワークにおける幹の部分をつどれだけ充実させるのかという話になりますし、4 番ではその枝や葉の部分をつどうしていくのか。5 番、6 番、7 番、そして 8 番も含め、コンパクトにしていくとき、集約を図っていくときに大事な要素になっていて、どれが上位とか、どれが優先順位が上だと言えないようなものがここに入ってしまうていて、とても違和感があると個人的には感じています。であれば、どれくらいの質が必要なのかということを知るほうが答えやすいと思っています。例えば鉄道であれば、1 時間に 1 本でいいのか、1 時間に 2 本欲しいのか。バスであれば、少なくとも朝は何時からあつて、夜は何時まで欲しいとか。そういう、どれくらいの質の公共交通やそういうサービスレベルがあれば、満足した、豊かな、高齢者にとっても生活しやすい暮らしが営めるのかというほうが、回答する立場からすると答えやすいのではないかと感じました。どれも生活していく上では重要なことなので、これを 5 つと言われると少し困るというのが個人的な思いです。これはコメントなので、もしそういうところが配慮できるのであれば、よろしくお願いします。

○議長 ありがとうございます。なかなか、どれも大事なことから選択肢に書いてある中で選んでもらうというところの意味ですね。そこをつどう捉えるかということかと思っています。交通に関しては、別途また交通のアンケートをされるのかは分かりませんが、より深掘りした検討はされていくのだらうと思うので、この都市マス、立適の検討の中で、この設問をつどう生かしていくのかということに対するご指摘かと思いました。

何か回答はいただけるのでしょうか。検討していきますということですか。

○事務局 内容を検討して、盛り込めるものは盛り込んでいきたいと思っています。

○議長 今後、進めていく上で、関心が高いものであれば進めやすいと思うのですが、関心が高くて高くないけれども大事なものなど、そういうギャップがあるものも恐らく出てくると思うので、そういったところの実際の説明の仕方であるとか、進め方といったところが、むしろ重要になってくるのではないかと思います。伺っていました。

○事務局 補足で、どれが重要かを選ばせる意味合いとしては、どれも重要なのですけ

れども、より重要だというものに対しては、今の現行の施策では何かしら課題が多いだろうといったところが見えてくるのではないかと。その上で、今回のところでは、質の部分もちろん訪ねたいのですけれど、そういうところが見えてきたら、その部分に関しては何か課題があるので、より深掘りしたアンケートを交通施策のほうで取っていただくとか、そういう絞り込みに使えるのではないかと考えています。

○議長　ある意味、課題の重いところを捉える上での重み付けということでもあると。

○事務局　そうですね。

○委員　少しだけ補足で、いいですか。

○議長　もちろんです。

○委員　問 21 で、設問に「CO2 排出量の削減」とあるのですけれど、それに対する中身があまりないというか、本来であればエコな機材の投入など、いろいろとある中で、その辺がよく分からないなということと、3 番などは、本当にこれが重要だと言われたときに見直せるのか、高頻度で運行できるのかというのがかなり疑問です。その辺が少し気になったので、そこだけ補足的に。

○議長　ありがとうございます。この「CO2 排出量」は私も少し気になっていたところではあるのですけれども、この辺は、公共交通は大事だということを言いたいという含みがあるのだらうと思いつつ、あまり明示的に書かれていないというところの気持ち悪さもあるように思います。委員、もし直すとすれば、みたいなところがありますか。

○委員　本来であれば、車体自体をそういう水素とか電気自動車に変えていくみたいな話もありますし、交通の観点で言うと恐らくそういう観点も出てくるので、そういう選択肢を入れておくのであれば、まだこれが入っている意味が分かるのですけれども、これだと、我々としては CO2 排出量削減は、公共交通を使ってほしいのだろうなとか、歩いてほしいのだろうなという思いはあるのですけれども、回答者側は、多分、その受け答えができるのかなというところと…。

○議長　ありがとうございます。

○委員　今の問 21 の設問ですけれども、設問はなるべくシンプルなほうが答えやすいと思います。高齢化に伴う交通弱者とか CO2 とか、余計な情報を頭に考えてこれを読んでいくと検討がずれてしまうので、私は、この前段抜きで、移動交通のあり方という設問のほうが、回答にはスムーズにたどり着けると 생각합니다。要するに、設問はシンプルなほうがいいと私は思います。深い意味があるのだったら、それは別ですけれども。

○議長　ありがとうございます。その辺が、多分、思いが先行してたくさん文章を書いていると思います。それを理解した上で書いてもらいたいというところはあるつつも、それを求めるかどうかというところですよ。分かりづらくなっているというところは確かにあると思います。もう単純に、問 20 は「安全・安心について」、問 21 は「交通・移動の利便性について」、問 22 は、これは誰に向けてというのがなかなか、外に向けてなのか、未来に向

けてなのかみたいなのところはあるかと思うのですが、長野市の魅力的・持続的なまちづくりにとって重要なテーマはどれでしょうか、みたいなことなのかもしれません。先ほど委員からもあったとおり、少しキーワードというか、できるだけ設問と選択肢はシンプルなほうがいいというのは、そうかと思います。むしろそこを補足する文章はあってもいいのかもしれませんが、その辺、項目のキーワードをばんと出してから、補足文があるというような構成のほうが回答しやすいのではないかと思います。少し工夫いただければと思います。

ではいったん、この資料2に関しては、いろいろご意見をいただきましたけれども、大きなところでは、やはり問20から問22のところですね。長野市全体のというところをより分かりやすくということと、問22が重要だろうというご意見は多かったと思いますので、少しその辺の設問の意図を明確にして、回答者がどういう観点で答えるかということとできるだけ分かりやすく設問のところで工夫いただくということ。そういう意味では、前回の問15にあった結構大事なキーワードというか、観点が抜け落ちないように、少し選択肢が増えても致し方ないと思うので、丁寧にキーワード、観点を漏らさずに、問22の選択肢を作っていただきたいということかと思います。

順番として問22を問20の前に持ってくるか、どうするかというところではありますが、いったん、最初に持ってくるという方向でよろしければ、そうしようかと思います。大項目3番の「長野市全体の今後のまちづくり」というところの最初に、今の問22を持ってきて、長野市全体のことを聞いているというところをまず意識していただいて、そのあと、今の問20の安全・安心の部分と、問21の移動・交通の面を付けるというふうにできればいいかなというところですね。

あと、全体を通じて、設問、選択肢をシンプルに分かりやすくというところは皆さんからいただいたと思いますので、少しその辺の文言の工夫をしていただく。いろいろほかにもご指摘がありましたけれども、大きいところはそういうところかと思います。事務局でまたご検討ください。

では、続きまして、本日の資料5、6、若者向けのアンケートと子育て世代向けのアンケートについて、本日、ご意見を一通りいただきたいと思っています。前回、あまり議論できなかったのですが、改めてご意見、ご質問をいただければと思います。

先ほど、委員からありましたので、お願いします。

○委員 資料5の2ページ目の問10の、「日常的に子育てをサポートしてくれる、あなた又はあなたの配偶者のご両親はいますか」という質問ですが、両親ではない場合があると思うのです。親戚や近所の人なども含めるのかどうか。自分の親に限定するのであれば、「親」かなと思いますけれども、そこが少し気になります。

あと、もう1点は、4ページ目の問17ですが、「住まい選びにおいて」というふうに聞かれているのですが、住まい選びというと、自分の住宅を選ぶときの感覚で答えてもらいたい設問なのかどうかということと、家を買うのであればいいのですが、例えば⑨に「土地の価

格の安さ」とあるのですけれども、賃料が安いというのはないので、賃貸の場合の答えるスタンスも同じでいいのですか。家を買うイメージだと、そこに家を買って、もうずっとそこに住むという覚悟でいる人に聞いている質問のような感じなので、賃貸の人向けに、少なくとも「賃料が安い」とか、その辺も入っていたほうがいいのではないかという気がします。

○議長 2点あったと思いますが、事務局、お願いします。

○事務局 まず、問10ですが、確かに両親に限る必要はないかと思います。代表的なサポート者を挙げるならば両親ということで、こういう書き方にしています。サポートしてくれる人がいるか・いないかというのが一番聞きたいところで、両親に限定する必要はないと思うので、例えば「ご両親などはいますか」など、少し含みを持たせたような言い方に修正しようかと考えています。

○委員 有償で依頼するベビーシッターとか、そういうところではないことを聞きたいのですか。

○事務局 そうです。基本的には、有償のベビーシッターなどではなくて、お金が発生しない人たちで子育てをサポートしてくれる方がいるか・いないかということを知りたいと思っています。

○委員 なので、「ご両親は」という聞き方になっているのですね。

○事務局 はい。その代表的な方としてご両親の場合が多いというところで、こういう形になったのだと思います。

○委員 両親がそろっているとも限らなかったり、いろいろするので。気持ちはよく分かります。

○議長 どういう書き方になるでしょうか。身内の方、親戚などですか。

○委員 有償サポート以外で手伝ってくれる人はいるかということを知りたいのですよね。

○事務局 そうです。

○委員 近所の人やおじさん、おばさんなどは。

○事務局 それであれば、もう具体的なことを言わずに、「日常的に子育てをサポートしてくれる方はいますか」とか、そのくらいにシンプルでもいいかと思います。

○委員 有償ではなくて無償でということですね。

○議長 括弧で「有償のサービスは除く」とか、そんな感じでしょうか。ほかのアンケート例なども参考にしながら工夫いただければと思います。

○事務局 分かりました。

○議長 問17に関してはいかがでしょうか。

○事務局 「住まい」というのは、居住地の選択のことです。なので、確かに、必ずしも持ち家とは限らないというのはご指摘のとおりかと思います。選択肢の19については、確かに土地の価格の安さというのは一軒家であることが前提条件になってしまうと思うのです。

が、当然アパートなどの方もいると思いますので、「土地や賃料の価格の安さ」など、借家の方もカバーできるような言い回しにしたいと思います。

○議長　では、適宜修正をお願いします。その他、2つのアンケートについて、いかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員　資料5の最初からいきますと、こちらは「未成年のお子さんがいらっしゃる方を対象に」という形で、資料2では「未成年」を括弧で「18歳未満」としていると思うので、ここも合わせて「18歳未満」のほうがいいのではないかと思います。1点です。

2点目としては、問14に「河川や水路の安全性」とあるのですが、土砂などの災害に対する安全性という形のほうが今っぽいのではないかと思います。

資料6にいかせていただきます。細かいところから、問14について、設問が「住みやすさに関係しそうな」という形で、今までは「関連する」などの形だったのが、急に「しそうな」という、何かふわっとし始めたので、ここは少し表現を改めていただいたほうがいいのではないかと思います。

戻って恐縮なのですが、問3に中学生を入れてないのはなぜですか。もちろん若いほど回答がぶれる統計みたいなものはあると思うのですが、10代から30代の方を対象にどうたっている手前、中学生が除かれると、彼らからいろいろ言われるのではないかと思います。いかがでしょうか。

○議長　では、まとめて回答をお願いします。

○事務局　資料5の「未成年」に関しては、表記をそろえたいと思います。

問14の選択肢の③は、確かに少し具体的な言い回しになっているので、もう少し包括したような、「災害」というようなワードで選択肢を改めたいと思います。

資料6については、今回は「将来を担う10代から30代の方」というふうに対象者を提示しているのですが、おっしゃるように中学生や、もっと言うと小学生の高学年も10代だと思います。それに関しては、実は直前に事務局の中でも話が出まして、当然その対象になってくる方になるので、やはり選択肢に入れたいと思います。ただ、回答者の実数がそれほど多くないでしょうから、例えば小学生・中学生を1つの選択肢にするなど、その辺は検討したいと思います。いずれにしても、小学校高学年や中学生の方もどこかしらに丸をできるような形に改めたいと思います。

問14の「住みやすさに関係しそうな」は、確かに表現としてどうかというところがあるので、ここは改めたいと思います。

○委員　ありがとうございます。小学生と中学生では行動範囲が違うので、小学校から中学校で行動範囲が広がってくるというのが一般的です。分けていただいたほうが、小学生は本当に身近なことしかなかなか考えきれなかったりするので、サンプルとしては確かに少ないとは思いますが、まとめないで集計していただいたほうがより安全ではないかと思います。

○事務局 分かりました。

○議長 今の点に関して確認です。この若者アンケートの周知というか、配布の方法ですけれども、前回の説明では、いろいろ市の SNS とか関連する子育て施設、学校などへの依頼ということだったと思うのですけれども、そういう中で、前回の資料では、市立長野高校など書かれていましたけれども、もし小学生や中学生も対象に積極的にするのであれば、少しそういったチャンネルもあったほうがいいのではないかと思います。その辺も含めた考えを少し整理したほうがいいかと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局 前回の部会の資料 3 にあたると思うのですけれども、周知方法のところ、大学であったり高校にはプラスアルファの部分で周知するとお伝えしました。ただ、今回のこのアンケートは、一番聞きたい層としては、やはり高校生以上から社会人の方というところがメインのターゲットかと思しますので、もちろん回答していただくのはありがたいことなのですが、特出しで小学校、中学校に行つてというところは、今のところ考えてはいないです。

○議長 なるほど、分かりました。

○委員 今、周知方法の話が出たので、いいですか。

○議長 もちろんです。

○委員 高校や大学などという話だったのですけれども、大学生などは市内在住とは限らない中で、そういう方は対象外にするのか、ここは市内居住者に限らず行うというのは、どちらで考えているのですか。

○事務局 ここに関しては、例えば子育てアンケートであれば、例えば長野市内の施設を使つていただいているとか、学生であれば、須坂市に暮らしているけれども長野市内に通学してきているとか、そういう場合も、少なくとも長野市に関わつていただいている方であれば対象者と考えております。

○委員 そうなってくると、資料 5 の問 3 や、資料 6 の問 4 のお住まいの地区というところに、「地区外」を入れていただかないと回答できない方が出てきます。

○事務局 そうですね。これも直前に事務局で話になったのですけれども、おっしゃるように、ここも選択肢として必要なので追記します。

○委員 では、資料 2 も含めて、居住者以外にも取れば取るということですか。

○事務局 資料 2 は長野市の 18 歳以上の市民の方から無作為抽出 3,000 人で、これは長野市の方です。資料 5、6 は、何かしら長野市に関わつてくれている方であれば回答できるという形になっています。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○議長 分かりました。その辺は、それぞれの問の属性を聞く部分で修正が必要などころがあるかと思うので、併せて見直していただければと思います。

その他、いかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 これは特に WEB で回答するという想定に立った時の話なのですけれども、特に若者、資料 6 の、頻度・満足度とか、行き先・頻度、満足度・重要度の辺りの設問が、恐らく、WEB で回答するときに異常に設問数が多いように見えるというか、とても長くて、恐らくスマートフォンなどからアクセスすると思うので、同じようなことを聞かれていると、結構離脱してしまうと思うのです。例えば、頻度と行き先みたいなことや、重要度・満足度みたいなところの違いみたいなものから、市として欲しい情報として、どこまでそこに対しての重要度などがあるのかというところを思いました。個人的には、できればこの二重で聞くようなことは、紙であれば答えやすいのですけれども、WEB の場合はかなり離脱する危険性があると、正直、感じていたので、必要最低限にさせていただくなど、検討いただいたほうがいいのではないかと思います。

○事務局 今回の WEB の画面は、作り込み的に、利用頻度の表が 1 回出てきて、その次に満足度の表が出てくる形になってしまっています。

○委員 そうですね。なので、受け取り側は同じ設問のように見えて答えるのをやめちゃうということが、WEB のアンケートでは普通にあると思うので、こういう系の聞き方は、WEB のアンケートの場合はもう最小限にさせていただくほうが、離脱を防ぐにはいいのではないかと。とにかく、WEB の場合は設問が少ないほうがいいと思うので、精査いただいたほうがいいのではないかと思います。

○事務局 削れる部分は削って、なるべく回答しやすいようにしたいと思います。

○議長 資料 6 の問 14 の満足度・重要度は、また全部というところが確かに若干ハードルが高いかもかもしれません。ご検討ください。もちろん、必要であれば聞いてもいいと思うのですが、その辺はトレードオフだと思いますので。

その他、いかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 資料 5 と資料 6 を見比べているのですけれども、例えば資料 5 の 2 ページの問 12 では、日常的に利用されている施設・場所の満足度などを聞いていると思います。それに対して、資料 6 のほうは、先ほどご指摘があったように、行き先があったり、頻度があったりということで、特に問 10 の「学校や勤務先以外の外出」のところで、満足度は聞いていません。次のところで若干聞いてはいるのですけれども、行き先とか頻度に着目しています。子育てのほうでは、満足度だけで、行き先や頻度は聞いてないです。片や、学生向けというか、10 代の方向けには行き先も頻度も聞いています。この辺りを、どう整合性をとっていくのか。どちらかに合わせるのであれば合わせるでもいいのですけれども、こちらでは聞く、こちらでは聞いてないとなると、片方の意見しか取れないので、ここは合わせたほうがいいのではないかと思いますのですけれども、何か意図があれば教えていただきたいです。

○議長 いかがでしょうか。事務局、お願いします。若者アンケートで、行き先と頻度を丁寧に取り組もうとしている意図がどういうところかというご質問かと思います。

○事務局 特に若者のアンケートの問 10 の行き先と頻度の部分で言うと、ここのデー

タは既存のものがあまりないので、今回取りたいということがあって、少し丁寧に行き先と頻度に関してダブルで聞くということで、こういう設問にしています。確かに委員がおっしゃるように、一方では満足度しか聞いていなくて、もう一方は利用頻度と満足度を聞いているというところに関しては、回答の負担感や離脱などの観点もあるかと思うので、基本的にそういった観点で、負担感がない方向で少し改めて見直したいと思います。

○事務局 補足で、若者に関して行き先や移動手段などの実態を聞いているのは、交通手段で自動車を持たない、あるいは運転できない方も広く対象にしているので、そういう方が公共交通とか、行動圏域がどういった形になっているのかという実態を把握したいという意図で、そういう方が住みたいまちづくりをしていくことが、これから長野市の人口増であるとかに重要な観点になってくるのではないかという意図もあります。子育て世代は割と車利用などがある程度ありますので、若者に関してはそういった行動実態を知りたいという意味合いで、設問を手厚く丁寧に聞いているというところがございます。

○委員 分かりました。今の、交通手段を持たないという話であれば、この①から⑫の項目で示していただいている具体的な場所がいったいどこなのか分からないままで頻度を聞いても、それが、今、自転車で行っているのか、電車で行っているのか、バスで行っているのかは分からないので、そういう意図があるのであれば、頻度高く行っている場所がどういう場所で、どういう手段で行っているのかというところまで丁寧に聞く必要があるのではないかと、今の話を聞いていると感じました。逆に、行きたいのだけれども行けてないというような所があるのであれば、そういうところを拾い上げるというようなことも必要なのではないかと、今の説明を聞いていて感じました。

○議長 交通手段も含めて、行ける場所がないから行かないというようなところが、この今のアンケートだけではなかなか拾い上げられないのではないかというご指摘です。

やり方として、どうしましょうか。この外出目的を少し代表的なものに絞るということもあるかもしれないと思いますが、その辺りは、設問の数と、本当に聞きたいところがどこなのかというところを再整理していただいて、特に若者向けアンケートの間10に関しては、少し見直していただいたほうが良いというところでしょうか。

○事務局 このことに関しては、このアンケートだけでは因果関係までは分かりにくいところもあると思います。そういう実態が見えてきたとすれば、目的になる場所がないから行けてないのか、交通手段がないから行けてないのかというところは、また別に深掘りしていく必要はあるかかもしれないと思います。例えば問9と問10を組み合わせると、またアンケートが複雑になる気もします。

○議長 そうですね。手段に関しては、住んでいる場所と行き先の場所で推測するということも含めて分析をすることになるでしょうか。

その他も含めて、ご意見、感想をいただければと思いますが、いかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 中心市街地の補足がそれぞれありまして、ここは長野周辺のかいわいということとで記載がありますが、1つだけ、そんなにくどく言う必要があるのか分らないですけれども、若者アンケートのほうの間14にも「中心市街地」という言葉がありますので、そこはまた補足するのかどうか、ご検討いただきたいです。

あと、子育てアンケートのほうの間17ですが、ここの設問において、⑧に「ショッピングモールなど大型商業施設への行きやすさ」とあるのですが、別の設問でも大型施設と出てきてまして、「ショッピングモールなど」という補足は不要ではないかと思いました。そこをご検討いただきたいです。それと、⑩の「ウィンタースポーツ施設」というのが、スポーツ施設ではなく、あえて「ウィンター」という言葉を入れるのかということも確認したいと思います。

○議長 事務局よりご回答をお願いします。

○事務局 まず、資料6の若者アンケートの、間14の「中心市街地」の定義についてですが、間10には補足が入れてあって、間16、14には入れてないのは、理由としては間10のほうは行き先に「長野市の中心市街地」というのがあって、そこで丸をする回数が多いので入れていて、間14は、設問の中のワードの1つとしてあるから入れてないのではないかと思います。おっしゃるように、丁寧に伝えるのであれば、こちらについても中心市街地の定義というか、補足はしておいたほうがいいのかと思うので、間14にも入れたいと思います。

資料5の子育てアンケートの、間17の選択肢の⑧についてですが、確かに「ショッピングモールなど」は要らないと思いますし、ほかの選択肢を見ても簡潔に書いてあるので、具体的な明示はほかとのバランスも悪いので、「ショッピングモールなど」は消したいと思います。

間10は、長野市の特性を見て、ウィンタースポーツが盛んということで入れているのですが、ウィンタースポーツに限る必要はないと思うので、ここも「スポーツ施設」というような言い回しにしたいと思います。

○委員 それで、中心市街地のエリアの中で、松代地区と篠ノ井地区の中心市街地は入れてないという部分においては、そちらの地域の人たちが自分たちの地域が中心市街地ではないと思うかもしれません。若者なので、そこまで細かいところまでは考えないと思いますが、知らぬ間に中心市街地エリアのゾーンがなくなってしまうということにならないようにだけはしておいたほうがいいのかと思います。ほかにもあるということがわかるように。

○議長 そうですね、感覚としてその辺はどうですか。言葉遣いに気を付けたほうがいい部分もあるかと思いました。

○事務局 そういう意味からすると、間14のところには注釈は入れないでにおいて、間10についてはあくまで長野駅周辺のエリアという限定にさせていただいたほうがいいのかと思います。

○委員 この設問で中心市街地のエリアを明確にする必要があるのかが、そもそもよく

分かりません。全て注釈は要らないと私は思うのです。回答者が中心市街地だと思っている所で回答すればいいのではないですか。逆に言うと、例えば長野駅東口は入らないということですね。そこを厳密にする必要があるのでしょうか。

○委員 長野駅周辺に東口は入らないのですか。

○委員 駅周辺なので、入ります。

○議長 使い分けるのであれば言葉を分けておいたほうがいいかもしれません。同じ中心市街地で、※印があって解説のある中心市街地の意味と、※印が入ってない中心市街地の意味が違うというのは、あまり良くないと思うので、であれば、分けて聞きたい場合は、長野駅周辺の市街地とか、中心部とか、そういうふうに明確にさせていただいたほうがいいかと思います。

○委員 厳密にする意味はあるのですか。

○事務局 今回のアンケートで長野駅周辺を中心市街地と定義しているのは、北長野、篠ノ井、松代と都市機能の集積の度合い、あるいは中活計画などを意識しているためです。ただ、ここで聞きたいこととしては、そういう長野市は多極型の都市構造になっていて、そういう拠点になっている所に人が行くのか、そうではない所に行っているのかなど、そういうことが知りたいのではないかと思います。そうすると、長野駅前に行くのか篠ノ井駅前に行くのかという違いは、確かにあまり重要ではないかもしれませんが。長野駅、篠ノ井、松代など、そういう拠点になる所に行っているか否かということを聞きたい設問なので、そうすると、確かに委員がおっしゃるように、長野駅周辺及び長野駅から善光寺までという明確な定義をしなくてもいいのではないかという気はしてきました。

○議長 委員、お願いします。

○委員 そういったときに、あとあとの後継者の方々が、中心市街地が重要だと言われているから中活エリアだけやりましたとにならないようにしてください。中心市街地というのは、今暮らしている方々は全ての拠点をイメージしているかもしれないですけど、ほかの人々にとっては中活エリアしかイメージされないと意味がないので、本当に中心市街地を絞らないで整備できるのかどうかという問題もあると思うのですけれども、そこはご注意ください。

○事務局 ここでの意図としては、あえて長野駅周辺から善光寺までという意味合いで聞いていて、ほかが中心市街地ではないと言っているわけではないのですけれども、それを聞くことの意味はあると思うので、そういう意味であえてその注釈を入れています。

○委員 中心拠点としての整備を今後していくかどうかという話であればいいと思うのですけれども、地域拠点まで含めるのであれば聞き方が変わりますよね。

○事務局 そうすると、やはり地域拠点も分けて聞いておきたいというところはあるので、それを加えていくと、この選択肢も複雑になるので、どこに重きを置くかというところはお意見があると思います。

○議長 委員、お願いします。

○委員 市民対象の資料2の中で、長野市さんは今後のまちづくりとして安全・安心、住みよいまち、それから、移動手段の確保をされているようなまちづくり、そこが非常に重点だから特出ししてご質問されているのですけれども、前に配られた審議会委員からの意見にもあったし、長野県も言っていますが、若者に選ばれるまちづくりをしましょうというのはどこの自治体さんもすごく言っていて、長野市さんも多分そうだと思うのです。個人的には、無理に近いのではないかという気もしますが、それは大事だと多分思っていると思うので、そういう点では、この若者のアンケートは非常に重要だと思うのです。それで、あまり実態を把握されていないということだったので、先ほどの話で、答えづらいなどという部分もあったのですけれども、このアンケートは、やはりもっと実態がきちんと把握できるように、回答が少し重くなったとしてもしっかりご検討いただいたほうがいいと思いました。長野市さんは、その若者に選ばれるまちというのは重要だとお考えなのでしょうか。

○議長 いかがでしょうか。市長が答えることかもしれませんが。

○事務局 私が答えていいのか分かりませんが、人口が減っていく中で長野市を将来においても持続的に繁栄させていくためには、将来を担う人に集まってもらったり、居住してもらったりすることはもちろん大切な観点になると思うので、それはもう当然必要な観点かと思います。

○委員 若者があまり遠くに行ってしまうようにということなので、そうすると、やはりこの資料6の重みはすごくあると思うので、よく検討いただければいいかと思います。

○議長 委員、お願いします。

○委員 今の観点で言うと、現在居住している理由まで聞かないといけないと思うのです。10代などはほぼ親の都合だと思いますけれども、30代の方などは転勤で来たのかとかというところまで聞いていただかないと、若者に選ばれるというのが、実際に今、どういう理由でここが選ばれているのかというところまで聞かないとわからないと思いますので、若者に選ばれるという観点であれば、現在の居住している理由まで聞いたほうがいいのではないかと思います。設問項目が多くなってしまうのであれですけれども、ご検討いただければと思います。

○議長 例えば、問5で、転入してきた方に対してもう少し深掘するような説明を作ってもいいかもしれません。おっしゃるとおり、大事なポイントかと思います。

ほかにはいかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 資料6で、長野市以外の居住者も含まれるということでしたので、そうすると、問5の「居住歴」がない方もいらっしゃるということですのでよいですか。ほかの飯綱町や須坂市などに住んでいて、通勤や通学の方も含まれるということですかね。そうであれば、そこも選べるようにしていただいたほうがいいと思います。

関連して、問10も、「お住まいの地区内」というふうに限定しているので、どういう文言

がいいのかは分からないのですが、「お住まいの地区」ではその時点で、回答を始めても、「あ、住んでないから対象外なのかな」と思って、回答をやめる可能性があると思います。

あと、確認なのですが、問6の「その他」というのは、寮やシェアハウスなどを想定しているのですよね。3番は、例えばおじいちゃん・おばあちゃんと孫だけが住んでいるみたいな場合は、「その他」ではなくて3番に丸をするみたいなイメージですか。どこに回答したらいいのかなと。回答する方が10代の小学生から30代まで広いので、10代であればおじいちゃん・おばあちゃんみたいな方とか、もしくは親戚の家に住んでいるといった方もいらっしゃると思うので、ここが良く分からないのではないかと思います。

○事務局　　今、委員がおっしゃったパターンで言うと、5の「その他」になるかと思います。

○委員　　「その他」に丸をしても、寮やシェアハウスなどだけではない方も丸をしている可能性があるということですか。

○事務局　　そうです。寮やシェアハウスの人も当然5ですし、今、委員がおっしゃったような居住のパターンの方も5になります。

○委員　　分かりました。

もう1点、同じ資料6の4ページ、問14の⑩の「バスや鉄道など公共交通の利便性」というのは、運賃も含んで利便性がいいかどうかを問うているという理解でいいですか。

○事務局　　利便性なので、運行本数や、もっと言うとバス停の配置、ルートや、その中に当然運賃も含んで、そういったものを総括して利便性と考えています。

○委員　　利便性というと本数などにいきがちですが、運賃が高いというところの不満もここに丸をしているはずだということですね。分かりました。

○議長　　すみません、まだあるかと思いますが、だいぶ時間もオーバーしているので、いったん、資料5、6に関しては一通りご意見をいただいたと思います。具体的に修正方法を確認できたところもありますけれども、特に若者向けアンケートの問9、問10辺りの、生活圈とその移動手段、満足度みたいなところは、丁寧に取ったほうがいいという委員からのご指摘もありました。一方で、答えてもらわないと仕方ないので、その辺りは実際の回答フォームの答えやすさみたいなところも、一度実際にチェックしながら、削れるところ、簡便にすべきところは簡便にするという方向で進められればと思います。

では、いったんアンケートに関しては、本日いただいた意見を踏まえて、大変だとは思いますが、できるだけ早めに修正案を作っていただいて、もう一度皆さんに見ていただいて、そこはもう1ラウンドやりとりした形で最終的にもうフィックスして、7月中旬に確定、開始するというスケジュールかと思います。

○事務局　　事務局のスケジュールで恐縮なのですが、市民アンケートは7月14日（月）には発送するということで段取りを組んでいます。そうすると、印刷、封入、あるいは、対象者の抽出といった作業をする必要があるのですが、それらを踏まえると、可能であれば今週

の金曜日、27日までには皆さんにご確認いただいて、これでいこうというところまでいきたいと考えています。

○議長 分かりました。では、そういう意味では、スケジュール的には、いったん直して、確認していただいて、また直すというのはあまり現実的ではないという感じですね。

○事務局 そうですね。今日、皆さんからいただいた意見を踏まえて修正していただいて、少なくとも部会長にはご確認いただいた上で、委員の皆さんにデータで送らせていただくという形でお願いしたいと思います。

○議長 分かりました。では、個別の意見に対してどう考えたかというところも含めてお伝えする形で、今週末までにフィックスさせるということで、では、あとは事務局及び私のほうで預かって、最後に確定するという形で進めさせていただければと思います。もし、今日言い足りなかった意見などがあれば、本日中か明日くらいまでに寄せていただければと思います。

○議長 続いて、もう1個議題があります。「改定スケジュールについて」のご説明をよろしくをお願いします。

○事務局 資料7のスケジュール表をご覧いただきたいと思います。2枚あるのですが、1枚が「改定スケジュール（変更案）」と書いてあるものになります。「改定スケジュール」とのみ書いてあるものが、前回の第2回専門部会でお示ししたスケジュール表になります。お伝えしたいこととしては、改定のスケジュールを、今までお示ししていたものから少し変更したいということで、皆さんのご意見を伺いたいという内容になります。

縦に並べるなどしてご覧いただきたいと思うのですが、変更したいところとしては大きく2点ございます。1つ目が、32地区の地域別懇談会の時期です。前回の5月22日の第2回の専門部会では、令和8年の6月から7月の素案を作った後にそれを持って地域の皆さんから意見をいただいてブラッシュアップするというふうに考えていたのですが、それでは実際のところ、良い意見をいただいても反映しづらいということもありますし、地域の皆さんからしても、もう決まっているのではないかというようなニュアンスでどうしても捉えられてしまうという側面があるかと思います。第2回の部会の中でも、委員さんから、実施時期について再考してはというようなご意見もいただいたかと思います。

そこで、変更案を見ていただきたいのですが、今が赤いところ、6月24日で、これで7月にアンケートを配って、8月の下旬、それから、10月の中旬辺りで都市づくりの目標、理念や、分野別の方針を決めていきたいと思うのですが、その辺りがおおむね形になった時点で地域に出ていって、市として大きな方向性としてはこういうふうにやっていきたいと。そして、10年前の都市マスの地域別構想をお示しするなどして、変わったところがどこかとか、どういうところを変えていったらいいかというような意見を収集する場にしたいと思います。

できるだけ柔らかいうちに生の声を聞いて対話したいと思います。それを踏まえて、令和8年の2月であったり3月、それから、年度が明けて具体的に地域別はどうか、施策がどうかということを設定する話に入っていきたいというところで、そこを変えたいというのが1つ目です。

それから、変えたところの2点目としましては、第2回のスケジュール表を見ていただいて、令和8年の12月頃に、「素案閲覧・公聴会」というものをお示ししています。これは法律の中に、素案を作ったらそれを広く皆さんにお示しして、意見をいただいて、計画に反映しなさいということが書いてあります。その手法として例えば「公聴会など」という書き方をしている、今はパブリックコメントと公聴会というふうに2回行うことを想定していたのですが、改めて考えてみると、パブリックコメントも公聴会も素案をお示しして広く意見を募って、いただいてそれを計画に反映していくという点では、趣旨としては全く同じものになると思います。それから、素案の閲覧は窓口においていただけなのですが、パブリックコメントは、それプラス、ホームページなどで公表して、より多くの皆さんの目に触れるということで、素案の閲覧や公聴会も包括しているのがパブリックコメントではないかと考えていますので、ここは重複が出てしまいます。そこで、第3回の変更案を見ていただきたいのですが、重複を避けて、パブリックコメントのみを実施するという方向で、最後に意見収集をするという形でもっていきたいと考えています。

変更させていただきたいところとしては、以上2点になります。

○議長 ありがとうございます。前回、地区別32地区で、アンケートの中で捉えきれないところに関して、意見の中でも早めに懇談会をという指摘もあったので、それを踏まえてということもあるかと思います。委員の皆さんからご質問、ご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 確認ですが、新しい変更案ではパブリックコメントのみを行うということなのですが、同じタイミングで素案の閲覧や公聴会を行うことは難しいのですか。

○事務局 難しいというわけではないのですが、パブリックコメントも市役所の窓口などに案を置いて、プラス、ホームページで案を公表したり、意見様式を提示したりなどして意見をもらうというものになります。素案の閲覧というのは、窓口に具体的な素案を置いて、来ていただいた方に見てもらって、意見があれば意見用紙に書き込んでいただくという形になります。なので、パブリックコメントをすると、おのずと素案の閲覧がその中に包括されてくるので、その形で考えております。

○委員 公聴会をやめるということですか。

○事務局 やめるというか、公聴会も、窓口にお示ししている素案を見て意見を書いていただいたら、その意見に対して市の考えをお示しする会というのが公聴会になるのですけれども、パブリックコメントも、紙面にはなってしまうのですが、いただいた意見に対して市の考えをお返しするという工程はございますので、趣旨としては同じものになるのではな

いかと考えております。

○委員　なくなったように見えるのは少し具合が悪いような気がします。パブリックコメントと素案の閲覧と公聴会は同じことを同じようにやっているよと、いきなりなくなったように受け取られないような表現のほうがいいと思います。その実態が同じだとしても、今まであった機会がなくなってしまったと思われるのはあまり良くないと思います。

○議長　資料だけ見た方などの印象も含め、少しその辺は、手続きをただ省いているだけのように見えるということに対するケアというか、表現も含めて検討いただければと思います。

その他、いかがでしょうか。

○委員　手続きを省いているというお話だったのですが、この以前いただいたスケジュールを見ると、パブリックコメントをいただいたあと、それを踏まえてパブコメの内容を反映させたものを素案の閲覧や公聴会でお示しして、さらにそこでご意見をいただいたものを修正して、部会でもむという形で、二重でやっていたと思うのです。それが、今回は1回だけになってしまったということなので、ただ単純に「同じものをお示しして」とはニュアンスが全然違うと思います。その辺りが、今までは2回しっかりと意見を聞いた上で修正して、それを改めてお示しして、再度ご意見をいただいてというステップを踏んでいたものを、1回でいいというふうにしてしまうことの妥当性をしっかりとご説明いただいたほうがいいのではないかと思います。

○議長　いかがでしょうか。

○委員　関連して、これまで公聴会はどういう形で行われていたのですか。イメージがよく分からないので。通常、公聴会というのは、利害関係者や学識経験者が専門的な観点から意見を言う場ですね。パブリックコメントは、広くオープンに誰でも政策案を見られるようにして意見を広くつかむというもので、位置付けがそもそも違います。何か、公聴会も広く意見を聞くみたいに私には聞こえたのですが、どのようにやってきたのですか。

○事務局　10年前の改定の時で言うと、実は、公聴会を行わずに、パブリックコメントで皆さんの意見をお聞きして、それを計画に反映するという形式を取っていました。今回の公聴会というのは、都市計画決定の公聴会に近いイメージです。素案の閲覧をして、窓口に来て見ていただいて、意見書が出てきた場合に開催するもので、その意見書に関して、考えをお伝えするのが公聴会というようなイメージで書かせていただいております。

○委員　分かりました。

○議長　実質的なやりとりの回数というか、往復が減るのか、もともと想定していたものとは変わらないのか。その辺りの意味で言うと、チャンスが減っているのは良くないと思うのです。仮に意見がそれほど出なかったとしても、一応、予定上はそういう往復の機会はつくっておくというのはあってもいいのではないかと思いますので、この報告のパブコメで収集した意見を、もちろん書面では返すのですが、それで終えるのか、もう少し、公聴会

とまではいなくても、前回より少し、言葉にも出ていましたけれども、オープンハウスのな、少し対面でやりとりできるような機会をこのパブコメの期間中に設けるとか、その辺のやり方の工夫にもよるとは思うので、今、一言でパブコメをして報告をしてと書いてあるところの中身については、精査していただければと思います。

○事務局　今のお話で、いただいたご意見についてはまた検討して、次の部会の時にまたお話しできればと思います。あと、地区別懇談会を前倒しするというところで実施するということは、前回のいただいたご意見を踏まえて行うということで、その点をまずご理解いただければと思います。

○議長　その点に関しては、基本、ネガティブは要素はないと思うので、いいのではないかと思います。

○事務局　法的に必要なかどうかという部分で、まず事務局で載せたと思うのですが、皆さんにこの新しいスケジュールをご納得いただくには、基本、丁寧な説明をして決めていくという趣旨の中で、前にお示ししていたのですけれども、その辺が、法的な部分で必要がないということでした。そうなりますと、最初に丁寧にやっていくと言っていた部分が変わってしまう部分があって、本当に申し訳ないですけれども、その辺も含めてよく確認して、納得できるようご説明をさせていただきたいと思います。

○議長　分かりました。

○委員　後半のほうの話で言うと、パブリックコメントや公聴会も含めてでしょうけれども、意味としては、確定させる前に広く意見を募るという意味と、あとは、都市計画マスタープランのような重要計画については、特にそれに関して利害関係者が存在しているので、利害関係者の合意調達というか、異議を申し立てられるプロセスとして必要だという、2つの意味合いがあります。今回の話で、地区別懇談会を前倒しするみたいなことで言うと、素案に対して 32 地区が異議申立てという意味で改めて意見を言うという機会ももしかしたら必要かもしれない。であれば、それを公聴会という言葉で 32 地区に意見を照会して、それに対して回答するという機会にすればいいし、それは別に公聴会ではなくても、パブリックコメントでも広く募るパブリックコメントと、それ以外に、利害関係者と思われる団体や地区に、このパブリックコメントで意見を出してほしいということを別途個別に案内をして合意形成をするということもある。やりようはいろいろあると思うので、その中で丁寧に合意形成をしていったということが見えるような形で、後半のパブリックコメント、公聴会はこの場で議論して、後々決めていけばいいと思いますので、そこだけお願いします。

○議長　重要なお意見をありがとうございます。すみません、もう 15 分近く予定時間をオーバーしていますが、これだけという方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

では、今日の時点では、地区別懇談会を前倒しするところの確認は皆さんにしていたいただいたということで、終えたいと思います。

進行が悪くてご迷惑をおかけしましたが、議事は終わりましたので、ここで議長を退任さ

せていただければと思います。では、事務局にお返しします。

◎その他

○事務局 ありがとうございました。本日の部会は、前回と同様にタブレット端末と紙媒体を併用した形で行わせていただきました。次回以降の部会につきましても同様の形式で開催したいと思いますが、よろしいでしょうか。

そのように進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次回の部会の日程でございますけれども、お手数ですが、本日お配りした「次第」をご覧くださいければと思います。4の「その他」のところに書いてございますが、第4回は8月26日(火)、14時から16時、会議室は141になります。第5回につきましては、10月15日(水)で、同じ時間でございます。会議室は141になります。先日メールでお知らせした次第では162会議室と記載されておりましたが、広い会議室が取れまして、141に変更になっておりますので、ご了承ください。第6回につきましては、12月17日(水)、時間は同じく14時から16時で、会議室は203で予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

お車でお越しの方で駐車券の処理をされていない方は、お帰りの際にお申し出いただければと思います。

◎閉会

○事務局 終わりに、都市計画課課長の飯島から閉会のごあいさつを申し上げます。

○事務局 委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきまして、また、長時間にわたり熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございます。

市民意識調査につきましては、先ほどのご議論を踏まえて確定させて、7月中旬のアンケート実施に向けて進めてまいります。次以降の専門部会では調査の結果のご報告と、都市計画マスタープランの肝となる都市づくりの理念、目標について議論を進めていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第3回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会を閉会とさせていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。